

父母・県民のみなさんへのアピール

全ての子どもたちが主人公となる教育を

ユニセフは2010年の「先進国における子どもの幸せ」についての報告書の中で、「国を評価する際、最も信頼できる目安となるのは、その国が子どもたちに対してどれほどの関心を払っているかである」とし、「子どもたちが日々健康で、安全に生活でき、必要最低限以上のものを与えられ、教育を受け、社会と関わり、生まれてきた家族と社会の中で愛され、認められ、さらにその一員であるという感覚を持つことが重要である」としています。

ところが、政府が閣議決定した2014年版「子ども・若者白書」の特集として、2013年に、日、米、韓、英、独、仏、スウェーデンの7か国で実施した13歳から29歳を対象とした意識調査では、「将来に明るい希望を持っている」と答えた日本人の割合は、62%と、残りの6か国が80%を超える中、最低です。「40歳になった時に幸せになっている」「自分自身に満足している」「自分には長所がある」と答えた割合も日本は7か国中最低です。一方、日本が1位だったのは「自国のために役立つことをしたい」の55%でしたが、「自分の参加で社会現象が少し変えられるかもしれない」との回答は30%と最下位でした。

政府は財界の要求を受け、アベノミクスで大企業を優遇しようとしています。その一方で、子どもたちの貧困をより深刻化させる高校授業料無償化への所得制限導入をはじめ、消費税増税や法人税減税、国民の生活を破壊する労働法制の大改悪を行おうとしています。また、「国家のための人材」をつくるため、「教育再生」という旗印の下、教育委員会制度を改悪し、教育にまで介入しようとしています。集団的自衛権についての憲法解釈の変更、原発新增設をも視野に入れた新エネルギー計画策定なども含め、すべてがワンパッケージです。この中に、子どもたちのために学びを保障する本質的な政策はありません。将来、子どもたちが、戦争の恐怖におびえ、モノのように扱われるような社会を誰が望むでしょうか。

私たちが目指すのは、すべての子どもたちが主人公となる教育です。私たちは、地域住民の「参加と共同」による開かれた学校づくりを推進し、子どもたちが学ぶ喜びを実感できるような教育を協力してつくっていくことを追求します。先進国の中で、日本ほど教育にお金をかけていない国はありません。子どもたちが、将来に夢や希望を持ち、真の学びを実感できるような教育を共に創っていきましょう。

父母・県民のみなさん、私たちは心から共同を呼びかけます。

2014年6月22日

山口県高等学校教員組合第70回定期大会